

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 9 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4073900138		
法人名	医療法人 浜江堂三野原病院		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	福岡県糟屋郡篠栗町大字笹栗5017番地 在宅支援センター2階 〒811-2405 (電話) 092-652-2755		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成22年2月3日	評価確定日	平成22年3月10日

## 【情報提供票より】(平成 22 年 1 月 18 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 1 日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	18 人	常勤	14 人	非常勤	4 人	常勤換算	13.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	4階建ての～ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(100,000 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( ) 円	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日あたり	1,500 円程度		

### (4) 利用者の概要(1月18日現在)

登録人数	16 名	男性	0 名	女性	16 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.25 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 三野原病院、医療法人 青洲会病院、片井整形外科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住み慣れた地域で継続的な生活の支援ができる場所を提供したいとの思いのもとに開設されたグループホームである。母体である病院は、長年に渡り、地域医療に携わってきた医療機関であり、介護老人保健施設やその他の介護サービス事業所を運営している。医療や福祉、介護面における法人全体でのバックアップ体制は、利用者や家族に安心感を与えている。「利用者」の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、利用者が有する能力に応じた自立した生活を営むことを目指しています」の基本理念のもと、多数の利用者が週2回法人内のリハビリに通ったり、自主的に歩行訓練を行う等、自立に向けて取組みがある。また、近隣の小学生が下校時や定期的に訪問して歌を披露したり、中学生が利用者とは将棋を指す等、地域の子供たちとの交流が積極的に行われているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果について、職員会議時に職員間で改善についての協議を行うなどの取組みがある。この過程において、法人全体の応援体制の構築の利点に職員間で気づくなどの成果が見られる。
重点項目	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の受審にあたり、前回の自己評価をもとに職員間で日々の業務を振り返りながら、評価項目の内容を協議し、職員の意識向上に繋げるなどの取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 民生委員、行政の担当職員、利用者、婦人会の方(家族)、法人内の施設相談員などの参加のもと、2ヶ月毎に開催している。ホームの活動状況や利用者の状況、行事などについて報告が行われているほか、行政の担当職員から高齢者のことで相談があったり、婦人会の方から催し物について提案があるなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
重点項目	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 面会時やその都度の電話連絡、介護計画書の説明時、家族会、地域の夏祭りなどへの行事参加を通じて、利用者の日常生活の様子や健康状態、外出・行事参加の様子などを具体的に報告し、家族との信頼関係を築いている。法人内で「患者のオプスマン」の認定を受け、要望・意見について法人全体で対応する体制がある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 町内の文化祭や夏祭りに利用者が参加したり、地域ボランティアの方や婦人会の方がホームで踊りや楽器演奏等を披露するなど、地域との交流が行われている。近隣の小学生が下校時や2ヶ月に1回訪問して歌を披露したり、中学生が利用者とは将棋を指したり、小・中学校のボランティア及び中学校の職場体験の受入れを行うなど、積極的に地域との交流が行われている。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「…利用者が有する能力に応じた自立した生活を営 むことを目指す。」の基本理念のもと、地域交流を図 りながら、利用者がその人らしく暮らし続け、安定した 生活を保ち続けるための支援を目指し、日々の業務 に積極的に取り組んでいる。町内の文化祭への参加 や観劇など、地域のなかで利用者がその人らしく暮ら し続ける支援が行われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、自然に目に入る工夫がある。全 職員は、理念が書かれたカードを常に携帯し、業務の 合間に理念に立ち戻り、ケアの内容を確認したり、毎 月の職員会議やケース検討時などに職員間で理念と 照らし合わせて検討するなど、理念の実践に向けた 取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内の文化祭や夏祭りに利用者が参加したり、地 域ボランティアの方や婦人会の方がホームで踊りや楽器演 奏等を披露するなど、地域との交流が行われている。 近隣の小学生が下校時や2ヶ月に1回訪問して歌を披 露したり、中学生が利用者で将棋を指したり、小・中 学校のボランティアや中学校の職場体験の受入れを行うな ど、積極的に地域との交流が行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、職員会議時に職員間で 改善についての協議を行うなどの取組みがある。この 過程において、法人全体の応援体制の構築の利点に 気づくなどの成果が見られる。今回の受審にあたり、 前回の自己評価をもとに職員間で日々の業務を振り 返りながら、評価項目の内容を協議し、職員の意識 向上に繋げるなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	民生委員、行政の担当職員、利用者、婦人会の方 (家族)、法人内の施設相談員などの参加のもと、2ヶ 月毎に開催している。ホームの活動状況や利用者の 状況、行事などについて報告が行われているほか、 行政の担当職員から高齢者のことで相談があったり、 婦人会の方から催し物について提案があるなど、運 営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議時に行政の担当職員の参加がみら れる。グループホームの概要や内容等をわかりやすく 説明した「福祉・医療サービスの外観図」の資料を作 成し、行政の担当職員が説明しやすいよう資料を配 布するなど、行政と連携を図りながら質の向上に向け て積極的に取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	職員間で成年後見制度や日常生活自立支援事業 について勉強会を行い、職員全体で理解を深める取 組みがある。重要事項説明書に成年後見制度や日 常生活自立支援事業について明確に記載し、契約時 や必要に応じて利用者・家族に制度の概要や利用手 順についての説明、支援が行われている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	面会時やその都度の電話連絡、介護計画書の説明 時、家族会、地域の夏祭りなどへの行事参加を通じ て、利用者の日常生活の様子や健康状態、外出・行 事参加の様子などを具体的に報告し、家族との信頼 関係を築いている。毎月、写真を掲載した法人内のお 便りを送付し、行事やレクリエーションの様子などを報 告するなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、地域の夏祭り・レクリエーションへ の参加などを通じて、家族との交流を深めながら、要 望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮があ る。面会時の何気ない言葉や些細な態度から、常に 家族の思いや意向の把握に努めている。法人内で 「患者のオンブスマン」の認定を受け、要望・意見につ いて法人全体で対応する体制がある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	法人内の異動は行っていない。ユニット間では、ス タッフの人員のバランスを考慮してやむを得ず異動を 行う場合があるが、日頃から誕生会や夏祭りなどの 行事を合同で行い、ユニット間の交流を深めている。 月1回の職員会議などで話しやすい雰囲気を作りなが ら、行事や外出の内容など、意見や提案しやすい環 境を整え、自主的に職員間で取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、資格や経験の有無などの制限は設けていない。人間性を重視しての採用である。レクリエーションや行事は、職員間でお互いを補いながらともに行うなど、職員の自主性を尊重した工夫がある。誕生会や利用者へのかかわりを主に担当職員に行ってもらうなど、職員一人ひとりの能力を育てながらやりがいを持って勤務していけるように支援している。外部研修への参加は、勤務調整を行い、研修費用等を法人内で負担するなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体での接遇セミナーや高齢者への尊厳や言葉使いなどに関する法人内研修に職員が参加している。職員会議で受講報告会を行い、人権尊重や高齢者の尊厳について職員全体で学習する機会を設け、日々の業務に反映できるように努めている。日々の業務の中で、人権に関する言葉使いについて指導を行うなどの取り組みがある。		高齢者の人権に留まらない幅広いテーマや視点を取り入れた学習や行政の出前講座、社会福祉協議会等の研修への参加などを通じて、更なる職員の人権意識を喚起する学習や啓発活動への取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修に輪番制で2名の職員が参加している。年1回、法人内で利用者の支援等について報告する機会が設けられ、職員全体のスキルアップを図る機会として活用している。外部研修については、案内を提示して参加を募ったり、研修内容や職員の経験を考慮し、管理者が参加を促すなど、機会を確保する取り組みがある。		徐々に職員間の人員体制が整えられ、今年度から管理者が職員の経験や資質に考慮して適切に振り分け、外部研修への参加の機会が確保されています。今後、外部研修への参加が、より積極的に図られることを期待します。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、法人内の研修に輪番制で職員が参加し、職員間の情報交換や他事業者との交流、意見交換会などが行われ、質の向上に向けて取り組んでいる。		同業者との職員の相互交流やネットワーク活動などを通じて、新たな発見や気づきを生む機会を積極的に持ち、更なるサービスの質の向上に向けての取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族からの聞き取りや見学、2泊3日の体験利用、医療従事者からの情報収集などを通じて、本人の様子を見ながら、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居直後は、家族への面会をお願いし、利用者への頻繁な声かけを行い、かわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者に寄り添い、傾聴の姿勢で利用者との信頼関係づくりに取り組んでいる。日常の中でのかわりを通じて、利用者への声かけの仕方や豆の煮方を教えてもらうなど、日常生活全般について様々なことを学ぶ機会がある。利用者が自然と職員へねぎらいや感謝の言葉をかけたり、お互いを尊重し支えあいながら共に過ごしている関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面談や情報提供などにより、職員全体で利用者の生活歴や情報を共有し、ケアの統一を図っている。日常のかわりの中で利用者の動作や表情などから思いや意向を汲み取り、援助目標やケアの内容について担当職員と職員間で検討し、計画作成担当者が介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用前の面談や面会時などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。入居時や日々のかかわりの中で把握した利用者の生活歴や希望、家族の意向をもとに、担当職員と職員間で具体的な目標やケアの内容について協議・検討し、計画作成担当者が介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一日の過ごし方や身体状態について、ADL表に具体的に記録している。6ヶ月毎または状況の変化時や家族の希望時に内容・目標の評価を行い、見直し及び再作成が行われている。月に1度、職員全体で全利用者や家族の意向の確認、目標・ケアの内容について検討する取り組みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週2回、8名の利用者の協力医療機関へのリハビリ通院介助や整形外科・皮膚科等かかりつけ医への通院介助など、利用者・家族の状況や要望に応じた、柔軟に対応している。利用者が入院した際は、面会を行い、退院後の生活に対応できるよう医療関係者と情報交換を行うなど、早期退院に向けて支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援している。協力医療機関への月1回の通院介助や看護師との連携により、利用者の状態把握及び受診支援が行われている。かかりつけ医への受診については、家族の協力のもと、ホームにて支援する等の取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や看取りについての対応を説明し、家族の意向を確認し、同意を得ている。日々のかかわりの中で本人や家族の意向を再確認し、本人・家族の意思を尊重しながら家族・主治医・事業所間で協議し、方針を共有していく取り組みがある。		利用者に対し意向の確認を行い、その時々々の状態変化に応じて利用者・家族・主治医・事業所などを交えて協議し、方針を共有するなど、本人の希望に沿った支援体制が整えられることを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけている。法人全体の接遇セミナーに職員が参加 し、職員会議で受講報告会を行い、利用者の尊厳に ついて職員間で意識の統一を図る取り組みがある。利 用者に応じて、タイミングを見計らったの誘導やケア の際のさりげない言葉かけなど、利用者の人格を尊 重した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間など、ホームとしての大まか な一日のスケジュールはあるものの、その時々の利 用者の気持ちを尊重し、決して無理強いせず、様子 を見ながら声かけを行っている。生け花教室などのレク リエーションへの参加やリハビリ、食事・入浴のタイ ミングなど、利用者一人ひとりのペースを尊重し、支援 している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	法人内の管理栄養士が栄養バランスやカロリーを 考慮し、見た目や旬の食材を取り入れた食事を提供 している。食事の盛り付けや皿洗い、茶碗拭きなど、 利用者一人ひとりができる範囲で協力しながら行うな どの取り組みがある。利用者と職員が共にテーブルを 囲み、和やかな雰囲気の中で食事を楽しめるような 取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	週3回の入浴を目標とし、利用者の体調に配慮しな がら、利用者一人ひとりの希望に応じて、回数や順番 など、入浴を楽しむための取り組みがみられる。入浴が 苦手な方にも無理強いすることなく、入浴時間をずら したり、声かけを工夫したり、清拭を行うなど、清潔保 持に努め、快く入浴できるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	週1回、花瓶の花を利用者が活けたり、食事の盛り 付け、皿洗い、茶碗拭きなど、利用者のできることや 得意なことなどを把握し、その時々利用者の気持ち を尊重しながら支援している。利用者が、生け花教室 や書道、裁縫を楽しんだり、地域の文化祭や観劇等 を楽しむなど、日常のかかわりの中で利用者の楽し みごとへの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	地域の文化祭や夏祭りへの参加、子供神輿の見 学、観劇、散歩、花見、食事会、ドライブ、買い物な ど、利用者の状況に応じてできるだけ戸外に出かける 支援が行われている。利用者の希望に応じて、温泉 や初詣、買い物ツアー、博物館への外出支援や協力 医療機関の売店の利用支援などが行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	建物の構造上、ホールへの扉以外は開錠されてお り、自由に出入りできる。職員は、利用者の様子をき め細かく観察し、談話の中から利用者の思いや状況 を把握し、さりげない言葉かけや誘導を行うなど、利 用者の暮らしを支える対応と安全面への配慮があ る。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署の指導のもとに法人内の特定施設と合同で 年2回避難訓練を実施し、利用者と一緒に避難場所 や避難経路、消火器の使い方などの確認が行われて いる。地震などの非常時に町内会長の応援がみら れ、日々のかかわりを通じて、地域の消防署との連 携、協力体制が得られるなどの支援体制がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	法人内の管理栄養士が献立を作成し、利用者の栄 養バランスや栄養価を考慮した食事を提供している。 ホームにて利用者の状況に応じてキザミ食などの食 事形態に対応している。利用者毎に食事量を記録し、 1日1500ccを目途に、水分摂取量が少ない利用者へ は頻繁な声かけを行い、水分チェックを行うなど、栄 養摂取や水分確保への支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、プランターに季節の花や野菜が育てられ、リビングには、利用者が活けた季節の花が飾られ、季節を肌で感じる心和む空間となっている。利用者が食事やお茶会を楽しみながらベランダでくつろいだり、昼食後、リビングのソファでゆっくりとくつろいでいる姿が見受けられ、落ち着いた雰囲気の中で居心地良く過ごしている様子であった。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドが備えられ、寝具やタンス、利用者が作ったひな祭りの飾り物、仏壇、ぬいぐるみ、家族の写真、季節の生花、調度品などの馴染みの物や使い慣れた物が持ち込まれており、安心して居心地良く過ごせるための居室作りの工夫や配慮がみられた。		

は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号